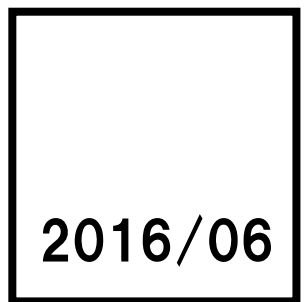




神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。



最近、本格的な社史と併せて、読みもの風の社史を刊行しているケースが目につきます。会社の歴史を詳細に記録するだけでなく、社員をはじめ多くの方に気軽に読んでもらいたい、という意図で二つの社史を刊行しているのでしよう。

前者がハードカバーでページも厚いのに対し、後者はソフトカバーで新書サイズや四六判という小ぶりのサイズ、かつ二百ページ前後などと、手に取りやすい工夫もされています。

今回は、ここ数年の刊行例から、読みものとしての社史のほうにスポットをあてて、数冊を紹介することにします。

空調総合メーカーのダイキン工業は、700ページを超える『ダイキン工業90年史 拓く』と同時に、『ダイキン工業90年物語 継ぐ』を2015年に刊行しています。『継ぐ』の「はじめに」によると、創業者らの苦闘の足跡、近年二十年間に経営判断をどう下したか、技術者がどうやって難題をクリアしたか、市場拡大をどのように進めたかなど、実践例を中心にまとめたそうです。「あとがき」でも、企業文化の継承に力を入れたことが書かれています。

「継ぐ」は、多くの著書がある石田修大氏（いしだ・のぶお）が執筆しています。

また、それぞれの表紙の「拓く」「継ぐ」の文字は、書家の石飛博光氏（いしとび・はつこう）によるもので、統一感を出しています。

総合食品メーカーの味の素グループは、700ページを超える『味の素グループの百年』（2009年刊行）の数カ月前に『挑戦者の系譜 味の素グループの百年』を刊行しています。新書版のサイズです。

『挑戦者の系譜』巻頭の「刊行にあたって」によると、正史の発刊に先立って、味の素株式会社の歴史を「味の素グループの従業員の皆様にも共有頂きたく、創業時からこれまでの百年間の取組みを諸先輩のエピソードを交えて本書にまとめました」と記されています。

（裏面につづく）

読みものの社史も一緒に

(表面から続く)

大手広告代理店の博報堂は『博報堂120年史』と『博報堂120年史ペーパーバック版』を2015年に同時刊行しています。『博報堂120年史ペーパーバック版』の前半は、逢坂剛氏(作家)、酒井順子氏(エッセイスト)ら、博報堂を退社して各界で活躍する5名が自身と博報堂との思い出などを寄稿しています。後半は120年の通史です。当初は、コラムニストの天野祐吉氏も執筆する予定でしたが2013年に逝去されてしまいました。

巻末「編纂に寄せて」によると「読み物と120年の歴史をコンパクトにまとめたものとで構成いたしました。お手軽に手に取っていただき、創業者の志、そして私たちが戦後の長い年月をかけて育んできた「生活者発想」「パートナー主義」の進化発展の歴史を通して、皆様との絆をさらに深めることができたら幸いです」と結んでいます。

農業機械などを製造するヤンマーは、2013年に600ページを超える「本編」と「資料・年表」からなる二冊組の『ヤンマー100年史』を刊行し、その翌年、新書版の

『ヤンマー100年史』を刊行しています。「編集後記」では「当社の歴史に馴染みの薄い若い人たちにもわかりやすいよう、平易かつコンパクトに再構成したものである。当然のことながら、事象の細部については割愛せざるを得なくなったが、逆に100年という大きな流れの骨格を浮き彫りにできたのではないだろうか」としています。

静岡県でガス事業を営む静岡ガスは、『静岡ガス100年史』と同時に、A5サイズの『静岡ガス100年史 静岡ガス物語セレクタ17』を2010年に刊行しています。巻頭「もう一つの100年史として」では「静岡ガスの一〇〇年を追う本編では紹介しきれない人間くさいエピソードも交えながら、もう一つの100年史を知っていただけようように配慮いたしました」と書かれています。また、「編集後記」では、「一〇〇年史の企画段階で、「歴史を細部にわたって詳しく網羅しよう」という方針と、「面白く読んでもらおう」という方針は表現上相反することでした。」とし、当初は本編のあとに追加する予定を、さらに読んでもらいやすくするため別冊になったそうです。これまでの事業はもちろん、「軟式野球界に「静岡ガス」あり」

などもセレクトされています。

今回は、判型を変えて手に取りやすくなった読みものとしての社史を紹介しましたが、判型は変えずに、ページ数を薄くしてダイジェスト版にした社史は、数多く見かけます。

本格的な社史と、歴史を見やすくまとめた史料の二冊を同じ函に収めた『日本水産百年史』(2011年刊行)や、マンガ版とセットにした『博多明太子物語 ふくやの50年』(1997年刊行)などもあります。

(科学情報課・高田)

●お問い合わせ先

神奈川県立川崎図書館 科学情報課

〒210-0011

川崎市川崎区富士見2-1-4

電話：044-233-4537

FAX：044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>